

脱原発で署名運動

自治労と北教組日高支部が

自治労北海道日高地方本部（橋本信夫執行委員長）と北教組日高支部（岡田尚史支部長）は十月二十九日、脱原発社会を

目指す「さようなら原発一千万人アクション」の取り組みの一環として、署名活動を浦河、新ひだか、日高三町五か所で展開した。

同アクションは全国の市民団体や労働組合などで組織する実行委員会の主催。

署名活動では、「青森県の大間原発から日高管内えりも町までは直線距離で百八十キロしかなく、大間原発で事故が発

生すると放射能は北海道にまで飛散し、海産物や農産物も汚染される可能性がある」とし、国への要望事項として「原



にまで飛散し、海産物や農産物も汚染される可能性がある」とし、国への要望事項として「原

子力発電所の新規計画の中止や既存の原子力発電所の計画的な廃炉の実現、「省エネルギーや自然エネルギーを中心にしたエネルギー政策への転換」、「泊原発三号機におけるプルサーマル計画の撤回」、「同一く三号機の将来的な廃炉を目指す段階的な運転停止」などの趣旨に賛同を求めている。

この日は三町で計五十人ほどが参加。脱原発ののぼりを掲げて各商業施設などで買い物客らに署名の協力を求めた。

さようなら原発運動は、東日本大震災から一年の来年三月十一日に福島で現地集会、同二十四日に東京日比谷野外音楽堂で集約集会を行い、集まった署名を政府に提出する。